

未来への備え続ける

日合協

日本アスファルト合材協会（今泉保彦会長）は、東京都千代田区の大手町サンケイプラザで第14回定時総会を開いた。2024年度の事業、決算報告や、25年度の事業計画案、予算案などを審議し、承認した。

今泉会長は、同協会が設立40周年を迎えたことに触れた上で「米国のトランプ大統領は、再選前にあったわずかな期待を見事に裏切った。各国のエゴが衝突する状況



は日本経済にも影響を及ぼしており、アスファルト合材の減少傾向に頭を悩ませる業界にとって樂觀できない事業環境が続く」と指摘。続けて、「当協会は、環境に貢献する技術を蓄積し、働き方改革などの取り組みも通じて未来への備えを続けていく。土木研究所と東京都の連携による、再生利用技術や中温化製造技術の共同研究もその一例だ。法令順守を念頭に、業界の健全な発展と社会的信頼の構築に努める」とあいさつした。写真。

25年度の事業計画には、4週8休の定着や土日休業の推進に向けた支援、協会設立40周年事業として『アスファルト合材記念号』を刊行すること、「社会構造の変化に対応したアスファルト混合物再生利用技術に関する共同研究」の実施などを盛り込んだ。（5・15）

